

令和3年度第12回士別市教育委員会会議録

1. 日時 令和3年12月13日(月) 午後1時30分～午後3時45分
2. 会場 教育委員会 会議室
3. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 三 上 正 洋
職務代理者 馬 場 千 晶 学校教育課長 須 藤 友 章
委員 加 藤 洋 之 合宿の里・スポーツ推進課長
委員 山 田 敦 久 坂 本 英 樹
委員 多 田 千 鶴 社会教育課長 武 山 鉄 也
士別東高校事務長 河 口 光 輝

4. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

○中峰教育長あいさつ

本日は、悪天候の中お集まりいただき感謝する。昨日からの雨が朝になってから雪に変わり、状況が一変した。こうした中で、各学校長とLINEも活用しながら状況確認したところであり、結果的には全校とも通常通りの日課となっている。一方で、先月15日に安全祈願祭を開催し、27日からオープンした日向スキー場では、雪が降らず、コースの一部で石が顔を出している状態で、危険回避のため10日からナイター営業を中止してきたが、本日から通常営業を再開できる見込みとなった。ただ、同じく12月1日に安全祈願祭を行ったあさひスキー場においては、今日の降雪でもオープンできる状況にはないところ。朝日地区は降雪量が少なく、年内のオープンは難しいかもしれない状況にある。そのため、朝日アルペン少年団は日向スキー場で活動していると聞いている。

新型コロナウイルス感染症に関しては、新たに「オミクロン株」が発生し、以前と同様に水際対策をすり抜け、国内でも確認されているところである。このような状況の中で、子どもたちは最大限の注意を払いながら全国大会などに行っている状況にあり、今週末には本市の児童生徒も参加している「絵本の里けんぶちチアリーディングクラブ」が、JAPANCUP2021チアリーディング日本選手権大会に出場する。また、全日本女子ウエイトリフティング選手権大会では、士別翔雲高校の瀬川瑠奈さんが、高校生ながら準優勝を果たしたところ。

先月には上士別小学校で「上小っ子まつり」が、先週は多寄小学校で「農業学習発表会」がそれぞれ開催され、本年の農業学習の成果が発表された。多寄小3・4年生は「植物の成長」について踏み込んだ内容で発表していたほか、5・6年生は士別農園の事案を通じ「流通」を学んでいた中で、今年はプレゼンテーションのスキルが上達していると感じた。ICTの積極的活用の成果が表れている。残念ながら、保護者等を招いての「試食会」は本年も開催することができなかった。

11月18日には糸魚小学校を会場として「上川管内へき地複式教育研究大会」が開催され、山田委員にも参加いただいた。この大会での授業の様子を見て、改めて複式学級での指導にはさまざまな工夫が必要であり、難しいものである中、先生方の努力を感じた。北海道教育大学の水上教授は、多寄小学校で「わり」や「ずらし」といった一般的な複式の授業方法によらず、例えば、一方の学年が歴史の対面授業を受けるとともに、他方の学年は前回の授業をベースに調べ学習を行うなどの授業が行われた。糸魚小の研究大会では算数をテーマとしたこともあって、ICTが活用しづらかった面もあったと思う。

12月5日には、サンライズホールで「センセイノチカラ」の公演があった。今年は、小学生向け、中学生向けの2本の芝居が取組まれ、年明けにはそれぞれの芝居を小学生、中学生が上演するという企画となっている。小学生向けの芝居は面白く、取り組みやすそうな内容だったが、中学生向けの芝居は少し内容が難しいのではないかと感じた。すでに参加を表明している子どももいるようだ。

11月30日には、市社会福祉協議会などの主催による「福祉教育懇談会」が開催された。東高校で「ボッチャ」に取組んだ事例発表のほか、「NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所車いす紅蓮隊」の方々からは「全ての人に優しい社会」の必要性やパラリンピックは障がいの状況によって出場できる種目が限られてしまうことなどについて講話いただいた。

また、本年は「士別市まちづくり総合計画」の見直しの年であり、学力向上のための環境づくりや高校の魅力化など、渡辺市長の政策も取り入れて計画を策定しているところである。高校の魅力化にあたり、例えば各種検定料の一部助成などを検討しているが、まだ義務教育段階で助成を行っていないため、義務教育段階での検定助成についても検討を進めたい。なお、計画の内容等については、今後、皆様にご相談させていただく予定である

11月中旬には、渡辺市長と一緒に上京し、日本陸連やJOCなどへ挨拶に伺った。また、翌週にはクイーンズ駅伝参加チームへの激励と合宿招致のため、仙台に出張した。仙台では全てのチームと面会することができたほか、合宿チームの協力により開催している学校での「陸上教室」が、チームと合宿地としての本市の相互に大切な取組であることを認識した。

12月10日付けの北海道新聞朝刊に、全国学力・学習状況調査の公表についての記事が掲載されたが、各市町村で公表についての捉え方が誤っていると思われる点があり、道新にこの真意等について確認中である。

本日もよろしく願います。

1 議事について

○中峰教育長 進行

議案第25号 「令和3年度士別市教育委員会補正予算」について説明を求める。

○須藤課長

「感染症対策等の学校教育活動継続支援事業」は、令和2年度予算として補正し繰越明許しているものであり、学校規模に応じた配分額の範囲内で保健衛生用品や教育活動に使用する「大型モニター」などの機材を購入している。この配分額は児童生徒数により決められているものだが、今回、国が配分額の上限を引き上げたことから、差額分について補正するものである。なお、財源の内訳は、半分が国庫補助金で残りは「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を充当する。

○中峰教育長

今年の3月に補正予算を措置し、各学校長の裁量でCO2モニターなど必要な物品を購入している。引上げ額は1校あたり10万円から20万円程度と中途半端な額ではあるが、一部の学校では「拭き取り用」の消毒液を「手指用」として使用していた例もあったため、この予算を活用してもらいたいと考えている。「上川管内へき地複式教育研究大会」の際に、糸魚小学校では教室内に2台のモニターを設置し複式の授業を行ったが、このうち1台は32型のものであった。現状においてはもっと大きいモニターを使用すべきと感じた。今回の引き上げ額で大型モニターの整備は難しいと思うが、次年度も同じ事業が実施された場合は検討してもらおう考え。また、市の保育園などでは交付金を活用しエアコンを設

置することとなった。「感染症対策等の学校教育活動継続支援事業」では、設置工事が必要となるものは対象外とされているため、備品として移動式エアコンを購入した学校もある。今後、学校においても交付金を活用し、エアコンの設置を検討したいと考えている。

○河口事務長

現在、本校では校務支援システムを導入していないが、来年4月から高校においても学習指導要領が改正され、各種様式等も大幅に改正される予定である。すでに全ての道立高校にはシステムが導入されているほか、市町村立高校でも導入が進んでおり、システム未導入の学校は本校を含め数校のみとなったことから本校にもシステムを導入するものである。システムを導入することによって複数人が同時に同じ作業を行うことが可能となるため、効率的に業務を進めることができるようになり、余裕ができた時間を子どもたちへの対応向に充てられるようになる。また、本校に異動して来る教員についても、これまで通りのやり方で校務を行うことができるなどのメリットがある。同様に、本校に勤務する教員が異動先で困惑することのないようにするためにも必要と考えている。さらに、システムはクラウドを活用しているため、ウイルスに感染するリスクが低いほか、過去のデータもスムーズに検索することができる。システムの導入にかかる費用は、初期経費として132,000円のほかに、利用料として毎月320,000円かかるものであり、債務負担を計上した。今後、来年1月からシステムの仮運用が始まり、4月から本格的に稼働する見込みである。

○中峰教育長

一番には情報を一元管理することが必要であると思っている。道立高校では全て導入されており、道内で未導入なのは4校だけである。すでにシステム導入に向けた動きを始めているが、ご理解いただきたい。

○中峰教育長

議案第26号 「令和4年度士別市教育委員会予算（案）」について説明を求める。

○三上部長

お配りした資料に基づき、主なものについて概要を説明する。(部長から説明)

年明けには市長ヒアリングが予定されており、内容が具体的に固まった段階で、委員の皆様詳しく説明させていただく。

○中峰教育長

旭川市民文化会館では緞帳が落下する事故があった。日常的な安全点検や専門的な業者からの知見も必要だと感じる。今回の事故では、発生から報告まで4～5日ほど要していることについても問題視されているようだ。

○加藤委員

燃料費の高騰が続いているが、燃料費は「一般行政経費」の方に含まれているのか。

○中峰教育長

その通り。数量を減らした所もあるが、燃料費の高騰により電気代も値上がりしている状況である。

○加藤委員

安全に関する予算は引き続き要求するべきである。

○中峰教育長

生涯学習情報センターと文化センターの外壁補修経費を要求しているが、場合によっては部分的な補修に留める可能性がある。

○山田委員

NHKの番組で、「学校のトイレに生理用品を置き、自由に使用させる取組」が取り上げられていた。保健室に生理用品を貰いに行くことはハードルが高いのではないかと感じる。本市ではどうなっているのか。

○中峰教育長

児童・生徒の貧困や、いわゆる生理の貧困への対応の観点から「新日本婦人の会」が本市においても要望・提言を提出されている。現状では、各校とも保健室などで対応している。

○須藤課長

各校の状況を確認した際に、「生理の知識に乏しい小学生の低学年などは、用途がわからず、おもちゃにしてしまう恐れもある」との意見も聞いた。

○中峰教育長

学校でどこまで教え、家庭でどのように教えるべきか、みんなで理解を深めることが重要だが、全て学校で教えきれものではないと思う。都立高校や道内の一部の高校では、トイレに生理用品を配置している。災害時などには必要となることだが、日常的になるとどうすべきか。中学校を訪問し、保健の授業を参観した際に3年生の男子生徒が「コンドームって何」と質問していたのを聞いて、年齢的には知っているものと思っていたので驚いたことがあった。

○加藤委員

包括的なセクシャリティ教育、多様性やジェンダーについて、高校生になってからでは遅い、中学校から行うべきである。日本では「性」や「お金」に関する教育が遅れていると感じる。これらのことに反発する保護者もいるようだが、大事さを理解すべきである。知識は必要であり、踏み込んだ教育を行うべきである。ICTの遅れもコロナウイルスのまん延によって明らかになった。小中学校など早い段階から教えたほうが良い。

○山田委員

子どもが遊びで株の売買を行うシュミレーターがある。マルチ商法の進化版なども出ているため、経済を早いうちから学ぶべきと思う。

○加藤委員

海外では低学年から投資を学んでいる例もある。自分の子どもが詐欺などに遭わないか心配である。

○馬場職務代理者

半導体だけでなく建具や資材も品不足と聞いている。オミクロン株の流行で見通しも不透明であり、予算はついても工期や納期が間に合うのか心配である。

○加藤委員

鉄材は毎週のように値上がりしているほか、人件費も上昇しているようだ。

○多田委員

生理のことについては、子どもの時に親から教えてもらった。友人同士のつながりで情報が共有できれば良いが。

○加藤委員

知識のある子とない子の差があるのではないか。

○中峰教育長

議案27号 『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』の『北海道版結果報告書』への市町村別結果

の掲載」について説明を求める。

○須藤課長

今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、小学5年生と中学2年生を対象として、4月から7月の間に実施することとされており、本市では全ての学校で調査を実施している。調査結果については、年明けに届く予定であるが、市全体の調査結果について、道が発行する報告書にこれまでどおり掲載するものである。

○中峰教育長

冒頭のあいさつでも触れたが、全国学力・学習状況調査の結果について、北海道新聞に掲載された記事は、捉え方が誤っていると考えているが、この件に関して保護者などから事務局に問い合わせなどはなかったのか。

○須藤課長

特にない。

○中峰教育長

これまで全国体力・運動能力調査については、思うよりも良い結果が出ていない。もしかすると「やり方の要領」が分かっていないのではないかというメニューもあった。また、子どもの身体が硬いとの話もあるが、体の使い方などを指導すれば改善される可能性がある。

○馬場職務代理者

公表するのは学校ごとの結果ではなく、市全体の結果ということであれば問題ないのではないか。

○中峰教育長

学力・学習状況調査も同じだが、学年による差というものも存在する。身体が硬いと怪我に繋がりがやういことが心配である。最近も学校から生徒が普通の動きの中で骨折したとの報告を受けた。

2 その他について

◇第4回定例会一般質問について

三上部長説明。

◇青少年のスマートフォン等情報通信機器の利用に関するアンケート調査結果について

○武山課長

以前、速報値としてお知らせした内容について分析したものである。同じ質問に対して、親と子で「意識のずれ」があることなどが見て取れた。

○中峰教育長

気づいた点や表現などについて修正が必要な場合はお知らせ願いたい。現在は「話す」ことや「会話する」ゲームもあり、視点の整理が必要である。

○加藤委員

子どもたちは「SWITCH」をやりながら「LINE」するなどしている。「あつまれどうぶつの森」や「フォートナイト」など、オンラインゲームをする際には、知らない人とつながらないように約束しているが、オンラインゲームに参加していることを知らない親もいる。

○中峰教育長

教育委員会が主催し、ネットリテラシーの研修会等を開催する必要があると感じている。

○山田委員

小学4年生くらいからゲームにはまってしまい、つい課金する例もあるようだ。大人であっても理性が必要と感じる。アンケートのタイトルについては、親が危機感を持つようなものにしてはどうか。

○中峰教育長

保護者など家庭で、使用時間などをきちんとコントロールする必要がある。祖母のカードを使用し、数百万円使用してしまった例もあった。

○加藤委員

友人宅や公共施設でWi-Fi接続していれば「LINE」で連絡がつくため、保護者としては安心できる。

○中峰教育長

少数意見も全て記載しているが、分かりづらい回答については削除してはどうか。

以前、「母と女性教職員の集い」でLGBTQをテーマに学習会を行った。どのような場で学ぶのがよいか。

○馬場職務代理者

Eテレでも取り上げているので、例えば番組を見せることも一つの方法だと思う。

○加藤委員

いろいろな形でアプローチする必要がある。子どもたちの方が理解していることもある。

○馬場職務代理者

性の問題は高齢になるほど拒否反応を示す傾向があると感じている。

◇当面する今後の日程について

三上部長説明。

午後3時23分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者 中峰寿彰

会議録調整者 須藤友章